

255th ACS meeting 参加報告

広域科学専攻 生命環境科学系
博士課程3年 和久井幸二

「博士・修士課程学生のための国際研究集会渡航助成」の支援を受けて、現地日時 2018 年 3 月 18 日から 5 日間、アメリカ合衆国ニューオーリンズにて開催された“255th ACS National Meeting & Exposition”に参加した。本集会は、100 年以上の歴史をもつアメリカ化学会 (American Chemical Society) が主催しており、世界中から 11,000~13,000 人に及ぶ科学者が集って学際的な研究を含む最新の科学的知見の発表と情報共有、そして研究を遂行する上で重要な人脈の形成をおこなう場であった。プログラムは計 33 分野に分かれており、多様な化学分野の研究者のニーズに対応していた。

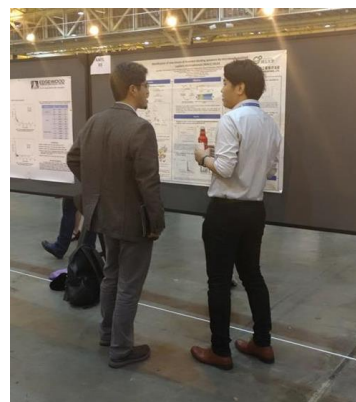
報告者は、分析化学のセクションで“Identification of New Classes of Thrombin-Binding Aptamers by Microbeads-Assisted Capillary Electrophoresis (MACE) SELEX”というタイトルでポスター発表をおこなった。本発表の趣旨は、核酸アプタマーと呼ばれる次世代のバイオ医薬品候補の効率的な取得技術と、それにより獲得された薬剤の可逆的な抗血栓作用に関するものであった。2 時間の発表の間に、10 名以上の研究者が報告者の発表を聞きに来てくれ、活発な議論に応じてくれた。世界中の研究者からの忌憚のない意見や質問を受けることは、自分の研究をより客観的な視点から捉え直すことができる絶好の機会となった。

自身の発表時間以外では、主に関連分野の研究者と意見交換をしながら技術的な情報収集を務めた。また、第一線で活躍するライバル研究者の発表を聞くことは、研究に対するモチベーションを高める良いきっかけとなった。

最後に、有意義な経験をさせて頂いた本支援に報いることができるよう、これからも研究活動に邁進する次第である。



会場の Convention Center 外観



発表の様子